

との間にほとんども溝がなく、一年は二年に
何でも遠慮なく言えるからである。これ
は良い事か、悪い事かは言い切れない。し
かし僕は、強イクラブより楽しいクラブを
オ一とする。

今年の一年生は、僕達一年生の時以上に
先輩をけあたがる。毎年／＼という傾向
にあるのではないだろうか。毎年／＼生
意気に理屈っぽくなって来てるのではないだ
ろうか。どん／＼クラブの運営がむづかし
くなってくる。勉強時間と練習時間のバラ
ンス、先輩と我々現役との関係や練習のや
り方、時代のづれに生じてくる考えの違
い、色々と問題はたくさんあるが僕は僕な
り、色々と考えているが、ここで述べるこ
とはいかにあてあかず、理屈っぽくなるからで
ある。

我が舞台を見て

鈴木 栄太郎



入部以来十日の四月十七日に本校で行わ
れた対生野高校戦で後半、増田さんに代つ
てキーパーに入ったのが、僕の初めての試
合経験である。見るのは小さい頃から三国
丘高校でよく見たものだが、実際自分でや
ったのは始めて。余リドキドキはしなかつ

たが、それでも現在の様にはゆかず、前半
増田さんが零点を押さえておられたのを、
後半四点を献上してしまつた。しかし自分
ではまず／＼の出来であつた。後、府下大
会は準決勝まで進み、辛うじて近畿大会出
場権を獲得。しかしその近畿大会でも高津
ハインドボール部最大の敵である。雨クに出
くわした悪条件と、林さんの負傷で、奈良
代表育英高校に無念の涙をのんだ。後にも
述べるが、その翌年の三十六年近畿大会で
も雨クであつたことや、奈良代表に苦汗
をなめさせられたことを考えて見ると、我
が校は、近畿大会に見放された、が無事に
しもあらずである。とにかく三十七年度は
いかにしてモニのジニクスを破ると共に、
三度奈良県代表と相手みえたいと願つてい
る。以後全日、国体予選とも二回戦で退敗
松倉さん、前田さん、田中さん、注吉さん
、山口さん、福田さん、松村、西本、今村
、岩瀬、黒岡、鈴木で来るべき地区大会に
備えて練習に励んだ。その結果、十一月下
旬、寝屋川高校に於て行われた地区大会で
は、寝屋川を引分け、直試合の末、リムで
勝つた事は、今まで一番うれしかつたこと
であつた。地区大会後、インドアシリーズ
を迎えた。これは我々一年生にとつては、
初めての経験で大いにまごついたが、特に

ジャパンプロシユートは鼻の先からシユートされるように止めようがない。この室内大会に備えて冬休みを献上して練習し、丁度時を同じくして一般男子の室内大会も行われ、たので先輩達と合同練習であつて我々は勉強ができた。室内大会では東住吉を115で破つたまではよかつたが、桜塚には10と、相僕にたとえれば送り出しをくつた。完敗であつた。後にも先にもノ馬差で破れた記録はないように思う。さてこの室内大会で一年間のスチヂユールは大体消化されたのであるが、次に僕自身のこの一年間をふり返つてみよう。入部した当初は、丁度試合期間中だったので、倒らで基礎練とボール拾いばかりやらされた。ちよつと休憩してゐると、林さんの声が飛んで来るとサボルこともできな。コハンドボールは文字どおりハンドボールであるはずなのにこんなことばかりやつてはいてもえんかいな。という様な疑問はなかつた。ところが、皆が恐い一心で練習に励んだ。そうこうしてゐる内に中江さんがコーチにまられ、あつさりキーパーに指名された。それ以後ずっと五月末までキーパーを務めたわけである。いよく四月、新部員も迎え、先に加えた奥村、三木両君と共に戦力を増し、陣容は今迄になく充実し、新下大会、

近畿大会に突入した。新下大会予選では、春日丘を110、生野をクー6、寂屋川を延長の末119と破つたが、この頃が一番の打撃屋川戦に撃退された好ゲームは耳かた様に思う。鬼ヶ池に残る試合であつた。この結果新下大会に出場し、東住吉に破れはした。が豊中を151の持統の末ニれを降し遂に近畿大会に出場する事となつた。近畿大会当日、日本晴れの天気でグラウンドコンデイシヨニもエ々といふたのだが、あいにく前日の雨でグラウンドは水まみり、あまけにあかしの旅館に泊らされたため、すつかりコンデイシヨニが狂つてしまひ、むなしく奈良県代表と高枝の軍門に降つた。この試合を最後に三年生は引退、以後新メニバで臨む事になつた。その陣容は、二年七人、一年六人、本ワイド五人（松村、西本、今村、以二、年、橋本、船木、北岡）バックス人（岩瀬、三木、黒岡、鈴木）以上二年、佐藤）キーパー服部、これまでの戦歴等を述べたのだが、まとめてみると三十五年五月十二日に行われ、対最上津戦から、三十六年十一月一日に行われた対京大二軍戦迄、十二勝十二敗一引分け、勝率五割というあまりかんばしくなれ成績であるが、今後がんばつてぐんぐん勝率を上げ、高津ハンドボール部の歴史を載すかしめ

ない様に心掛けるつもりだ。最後にハンドボール部はチームプレーであるから、部員一人一人の好きかかってな行動言動を育てては勝利は有り得ないということを言って、この文の語句としていた。

反感



西本 由治

私は高校時代に何か一つのクラブ活動に打ち込もうと決心した。元来、私は腕を強くしたかったが、手でボールを扱うハンドボールに決めた。そんなささやかな目的でハンドボールをすることにした。が、今から考えるとそれは、全くかけ離れた夢であった。

そう、一年の夏の合宿の時、私はあんまり二年生にこき使われるので、合宿後の練習は一度も行かなかった。食事の用意、後かたづけ、ボールの手入れ、室のそうじ、その他色々の用をさされた。私は家においても、どこにおいても、一度だって人に使われた事がなかった。だからよけいに腹が立ってしかたがなかった。合宿だから一年も二年もお互いに苦しい。二年は一年生の時一度経験したから、二年生が何でもしてくれてもよさそうなものだ。毎日く、し

んどのいからみんな動くことがおっくうがちなのに、二年生は帰ながら一年生にあせいで、こうせいといつていいつけるばかりで、自分たちは少しも動こうとしない。だから一年生はよってたかって文句ばかりいた。いつもそんな事になると、私が一番先に感情を爆発させて、二年生にたてついた者だった。そんな文句があるのならば自分でしろ。

いつだったか、こんな事も考えた。一年生だけで高津ハンドボール第二軍を作ろうと。ギーパー、バツク、ホワードも一年生だけでできるのだ。そして今の二年生の奴らどんな顔しよるやろ。そうか、二年生の奴らおいだしてしまおう。(まだそれは晩秋の時であつたが)一年生だけでクラブをやつてゆこう。こんなバカな事も腹いせに考えたものだった。しかし、二年生になって考えてみると、それらが二年生にとって一番苦痛な事があることがわかった。又、クラブ内の封建制はあたり前だと、そうでないとは統せいとれないし、今のサラリーマン社会の現実もそうであることだし、皆が平等であるとはボールの手入れとか部屋のそうじなどだれもしない。だから一年生は、昔の剣の修業のように、かまたぎ、マキ割り、口ウカふきをするが如きに、クラ